

授業「デザイナーのための文章表現」の教材開発 ーダンススクールのチラシ制作(2)ー

柴田奈美

1. はじめに

デザイン学部の3年生の学部共通科目「デザイナーのための文章表現」は、平成20年度より立ち上げた授業である(演習、1単位、選択)。文章表現に対する苦手意識を持つ学生に、いかに楽しく文章作成の技術を積極的に高めさせるか、という課題を設定して教材開発に取り組んでいる。

2. 授業の目標

1. 説得力や表現力を高めるために必要な、レトリックに関する知識を理解する。
2. さまざまな演習を通して、豊かな語彙力・言語表現力を身につける。
3. 言語文化に対する関心を深め、デザイナーとしての文章表現能力の向上を図る。

3. 授業内容

授業では、キャッチコピー作成を中心においた。前半はエントリーシートを作成するために、「自分」という商品売り込むという課題で、キャッチコピーとビジュアルで「ビジュアルピーアール」をA4一枚の大きさで作成させた(注1)。後半では、実在するダンス教室「ヒトミダンススクール」(注2)の入会勧誘チラシを作成させた。

このダンススクール入会勧誘チラシの作成は、平成22年度から継続して試みているもので、クライアントの依頼に応じた作品制作という条件をつけ、就業のためのモチベーションとなるように配慮したものである。

依頼者からの条件として、授業者から次のような点を示した。

- ① 品位と若々しさの感じられるもの
 - ② 「ヒトミダンススクール」の文字は必ず入れること
 - ③ ホームページ閲覧に誘導するもの
- さらに授業の課題としての条件として、
- ① キャッチコピーを工夫すること
 - ② 社交ダンスについてよく調査してから制作すること
 - ③ ターゲットを絞ること
 - ④ 写真などを使用する場合、著作権フリーのものを使用すること
 - ⑤ 文章表現全体(言葉の選択・文字の選択・改行の仕方・情報量など)を工夫すること

完成した作品は、まず5～6人のグループを作らせ、その中で7.5cm×7.5cmの正方形のポストイットに、作品のコメントを書いて作品の裏に貼らせた。グループ分けした理由は、必ず4～5名からのコメントは貰えるようにするためである。

その後すべての作品を教室に並べ、黄緑色のポストイットを一人4枚、水色のポストイットを一人1枚ずつ渡して、黄緑色はコメントしてあげたい作品に貼り、水色は自分がダンス教室のオーナーとして選ぶ特選作品の裏に貼るようにと指示した。

4. 結果

実在する社交ダンススクールの主宰や生徒さんなど、学外の方からの審査もいただけるということで、学生たちは意欲に燃えた。

完成作品の美しさ、課題完成時の学生の達成感という面と、ポートフォリオに使用できるという点も考慮して、カラー印刷を時間外に行うように指示した。

次に示す①～④は学生たちの中で評価の高かった作品で、⑤～⑦はダンススクールの主宰や生徒さんに選ばれた作品である。

① 中條愛理作品「ステップから彩る毎日がある。」

キャッチコピーが魅力的である。ダンスをすることにより、生き生きと毎日の生活を送ることができることを、端的に表現できている。「彩る」がダンスから得られる喜びを象徴的に表しているのである。さらに、このキャッチコピーにふさわしい、色味の美しいビジュアルである点が評価できる。中心のシルエットが淡い水色とピンクで、湖面に映っているかのようなシルエットがさらに淡い色合いで描かれ、シンプルな仕上がりである。

文字情報が薄く、読みにくいので、色の調節が今後の課題であろう。

② 永山佳恵作品「最近ちょっと、ドキドキしてる。」

キャッチコピーが七七音でリズムカルであるうえに、口語調でダイレクトに読み手の心に届きやすい。ドキドキ感を背景の薔薇が象徴している。水色の薔薇は男性の心を、ピンクの薔薇は女性の心を表現している。大小の薔薇がリズムと昂揚感を醸し出している。右下の「Hitomi Dance School」のフォントが背景の薔薇とよく合っている。シンプルな仕上がりで、上品に仕上がっている。た

だQRコードがやや大きいようだ。QRコードを小さくし、アドレスを添えるとさらに良くなるであろう。

③ 有光 彩作品「私が輝く、こころ踊りだす」

水彩画風の筆のタッチの面白い作品。白地にゴールドの文字、絵は黒とこげ茶で重厚なイメージである。これはホームページの色使いを踏まえたものであろう。踊っているダンスもスタンダードで、クラシカルなイメージがよく出ている。

キャッチコピーは8、8の音数に工夫が見られるが、ややインパクトが弱い。ゴージャスな大人の雰囲気の写真にふさわしいキャッチコピーの工夫が、今後の課題であろう。

④ 小島 唯作品「この物語の主人公はあなたです」

用紙を色画用紙風のものにして、全体的にレトロな雰囲気の作品に仕上がっている。特に「ヒトミダンススクール」のフォントに工夫が見られる。カップルは本のページの舞台の上で踊っている。これはキャッチコピーの「この物語」の言葉と直接結びついている。スポットライトを浴びているのも「主人公」に対応しているのであろう。よく構成の考えられた作品である。ただ、全体的に上に上がりすぎて、上に余白が殆どない。キャッチコピーも右に寄りすぎている。レイアウトをバランスよくするのが、今後の課題であろう。

⑤ 宇恵明日美作品「ひとみで、瞳が煌めく毎日へー☆」

主宰と生徒さんに選ばれた、ダンススクール投票第一位の作品。夜空をイメージさせるような背景と英字で書かれた「Hitomi dance school」の文字がロマンチックで華やかである。主人公二人の若々しさも好評であった。ただ、キャッチコピーがあまり目立たないのが残念であった。「ひとみで」は「ヒトミで」の方がダンス教室であることがはっきりする。

⑥ 橋本理美作品「君のヒトミダンスに恋してる！」

主宰と生徒さんに選ばれた第二位の作品。シルエットの男女の動きが躍動感に溢れていて、若々しいという評価であった。キャッチコピーにも動きが感じられる。色使いがはっきりしていて、印象的である。ただ、背景の機関車の意味がよくわからないという意見が多かった。「銀河鉄道999」を意味しているのであろうか。

⑦ 堀 日向作「はじめての社交ダンスを ヒトミダンススクール さあ♪ 踊りましょ」

主宰推薦の作品。子ども向けの作品で、熊と女の子が楽しそうに踊っている。切り株と草が描かれ、童謡「森のくまさん」を連想できる。色使い、フォントの選び方、字の配置の仕方など、全て優しいムードに仕上がるように工夫している。下の「ヒトミダンススクールで検索！携帯からもアクセス！」は吹き出しのようになっており、

親切な情報提供の印象を受ける。ただ、QRコードが大きすぎるようだ。

5. 考察

この授業は両学科合同授業で、受講人数が毎年60名を超えるため、教師が学生一人一人にきめ細やかなコメントを与える機会がどうしても少なくなりがちである。しかし、学生同士の相互批評をすることができれば、多くのアドバイスや評価を得られるというメリットもある。

今回、ポストイットを貼ることによって、学生は他の学生の作品を真剣に鑑賞でき、自分のコメント力を育成する機会にもなった。また、自分の作品の長所と短所を他の学生から指摘され、さらに作品をブラッシュアップさせる良い機会にもなったと考える。

今回もヒトミダンススクールの主宰や生徒さんに投票をいただいたが、票が特定の作品に集中しなかった。最高得点でも4点であった。学生が選んだ作品を選んだお客さんもおられ、前回の結果のように、全く好みが異なるという結果にはならなかった。学生に課題を出す時に、「品位が感じられること」の他に、「若々しさの感じられる作品」にすることを強調したためかと思われる。どの作品も全体的に好評価であった。

平成22年度から「ヒトミダンススクール勧誘チラシ」の作成を試みてきたが、今回の授業で一応の成果が得られたと考える。

次回は、学内で直接役立てられるチラシの作成を考えてみたい。

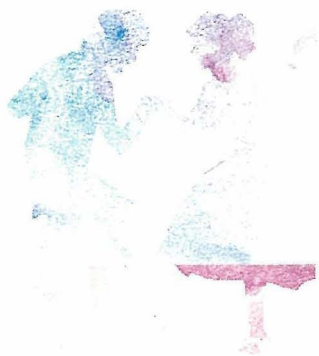
注

(1) 授業の詳細は「岡山県立大学語学センター研究紀要」No.12で述べた。

(2) 人見淳一氏主宰。岡山市北区横井上1299-6

* 授業「デザイナーのための文章表現」の教材開発—ダンススクールのチラシ制作(2)—柴田奈美

(図1)



ステップから彩る毎日がある。

hitomi dance school

(図2)



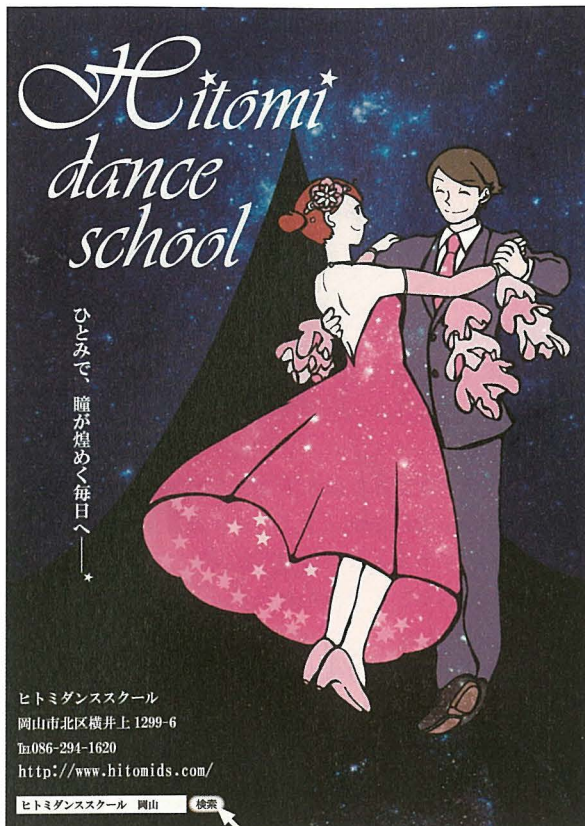
(図3)



(図4)



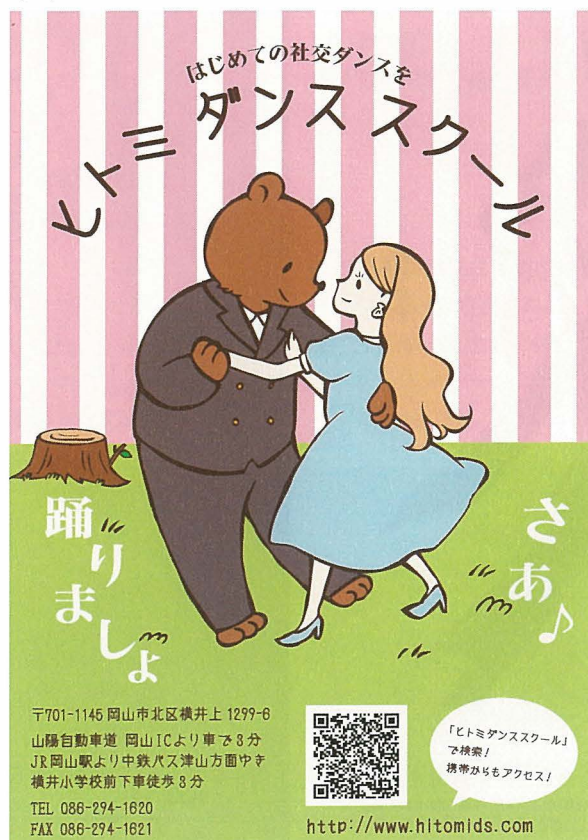
(図5)



(図6)



(図7)



* 授業「デザイナーのための文章表現」の教材開発—ダンススクールのチラシ制作（2）—柴田奈美